

# 6月学習会のご案内

平成25年6月8日

## 200回記念講座へ向けて

梅雨時期に入り蒸し暑い日が続くようになってきました。担任している学級の子どもたちが植えている朝顔も少々地面からの照り返しの暑さにうんざりとしてきている様子です。

先日は、ワールドカップのアジア最終予選の試合があり、日本代表はオーストラリアと対戦し見事？引き分け、無事ワールドカップ出場の切符を手に入れました。試合中継は諸般の事情によりほとんど見られず、最後の10分のみでの観戦だったのですが、0-0から1-1で終わるまでの貴重なシーンを目にすることができました。このまま0-0で終わりだなと思って見ていたところ、あり得ない失点を浴びせられました。そして、あの時間帯ではさらにあり得ないペナルティエリア内でのハンドとPKを見せられ、重ねてびっくりさせられました。まさに、サッカーの試合は最後まで何が起こるか分からないということを実感させられたゲームでした。

現実生活においてもあり得ない不運に巡り会うことはあります。しかしながら、そこであきらめず困難に向かっていけば、それを覆す結果を呼び寄せることができるのだと、いささか飛躍気味ではありますが、サッカーの試合を見つつそんなことを考えさせられました。

さて、6月の語る会ですが、200回記念講座へ向けての提案発表第2弾の実践を田岡朋子先生からお話して頂く予定です。夏の会へ向けて皆様方とともに提案内容を深めていければと思います。

|     |   |
|-----|---|
| 日時  | 平成25年6月22日(土) 9:30~12:00  |
| 場所  | 岡山大学教育学部附属小学校 2階 会議室<br>TEL (086) 272-0511 FAX (086) 271-3455                     |
| 連絡先 | 小出 真規 (こいで まさき) TEL 090-5704-7339<br>m-koide@okayama-u.ac.jp (学校パソコン)             |
| 内容  | 国語を語る会 200回記念国語講座(仮称)へ向けての<br>提案検討<br>「ウナギのなぞを追って」(4年光村図書)<br>田岡 朋子 先生(岡山市立妹尾小学校) |

<お知らせ>

※「おもしろ見つけ」の本を、附属小でお取り扱いしております！来られ前に冊数をご連絡ください。代金引換となります。(特価！)多くの方に手にとっていただけるように、みなさん！宣伝活動をがんばりましょう！



- ※ 今年度の**年会費2,000円**を集めます。まだ納めて頂いていない方はよろしくお願ひします。(やめられたり休会される場合も一声かけてくださるとありがたいです。)
- ※ 異動情報をお待ちしております。特にこの封筒が前の勤務先に届いておられる先生は何らかの方法でご連絡ください。訂正してお届けいたします。
- ※ 駐車場は北門(幼稚園)からの入場になります。
- ※ 校舎扉前には案内の黒板が出ています。ご確認の上、中にお入りください。(扉が閉まっていたら、上記の小出の携帯電話に連絡をください！)

## 5月の学習会の報告

(文責 近藤昌子)

5月の語る会は、小野先生による200回記念講座レポート案「生き物はつながりの中に」(光村図書6年)について話し合いました。

### 田中先生より

○附中OB会での話題より

「五月会」の案内状の挿し絵がサツキでなく「ツツジ」→ネットでベストアンサーを見たところ、ツツジとサツキが逆に答えられている。間違っただけで多くの人に伝わっていく可能性がある。

「ヲ」の書き順の間違い、「達」の字の間違いは大学生にも多い。

簡単なことでもいい加減にしていると嘘の再生産になることも。

情報の発信は表現の自由だが、学校教育では明らかな間違いを堂々と教えてはいけないという戒めをしたい。

### 小川先生より

○説明文22年6月の小林先生の実践より

・物語文のように本文に書き込むことをあきらめた。

→比較反応が表せない。

チロとロボットの挿し絵に書き込む手法。

・丸ごと読み

→ロボットに変化はない。つながりが並べられている。

段落ごとに課題に沿って読んでいった。

○「おもしろ見つけ」は反応の仕方の獲得が主。

「丸ごと読み」は積み上げた反応の仕方を活用。

→説明文では両者の区別はしにくいのか？8月の発表で主張点となっていくものを明らかにしたい。

### 田中先生より

○「丸ごと」か「おもしろ」かについて

「おもしろ見つけ」と「丸ごと読み」は反応の仕方を身に付ける方法の違いの区別であって、さほど違いはない。両者とも日常生活にある読みの場面での読む力をつけるためであって、2つの型に当てはめなくてよい。

説明文は全体または部分を読んで検証していく。

・同じテーマの主張の異なる二つの文を比べて読むこと

・調べたいことに関連する文章を集めて比較し総合すること

が日常で大きい部分。→どういう立場で、何について中心に書かれたものか、結論に至るまで手順は信頼してよいか、等が中心。

これは丸ごと読みの発想。予想すること(冒頭段落や題名)から始める読みが考えられる。ネーミングは実践で広がるためであって、段落ベースか全体ベースかの違いになるのでは？何のためにしているかが大事。

### 小川先生より

○場面ごと「おもしろ見つけ」全体「丸ごと読み」は分かりやすさとしての名前。リセットし、反応する力をつけるために説明文をどう扱うかを考えていく。

### 小野先生の発表

- |   |     |                           |
|---|-----|---------------------------|
| 1 | 単元名 | 筆者と対話しながら読み、自分の考えをもとう     |
| 2 | 学習材 | 「生き物はつながりの中に」「感情」(光村図書6年) |

## 3 単元目標

- ・「外の世界とのつながり」「一つの個体としてのつながり」「過去の生きものたちとのつながり」という観点から読むことを通して、生き物がつながりの中で生きることについての考えを深めることができる。
- ・「両親をたどっていけば生命の始まりまでたどり着くなんて考えたこともなかった」といったわかった反応、「生き物は姿は変わるけれど誕生と死までつながっている」などとつながりを見つける関係反応、「生き物とロボットで対比的に説明している」といった比較反応を使いながら、生き物として生きることのすばらしさという筆者のメッセージを受けとめ、自分の考えをもつことができる。

## 4 単元構想（全8時間）

## 第一次（2時間）

- 第1時 題名、第1段落を読み、読みの構えをもつ。
- 第2時 全文を読み、感想から学習計画を立てる。

## 第二次（4時間）

- 第1時 「外の世界とのつながり」について確かめる。
- 第2時 「一つの個体としてのつながり」について確かめる。
- 第3時 「過去の生きものたちとのつながり」について確かめる。
- 第4時 筆者のメッセージを受けとめ、自分の考えをもつ。

## 第三次（2時間）

- 第1～2時 「感情」を読み、筆者のメッセージを受けとめ、自分の考えをもつ。

## 5 学習展開 省略

## Q&amp;A

## 小川先生

小野先生の提案について

- ・価値目標「つながり」をどう考えさせるか、遊んだ経験の少ない子→いじめ、不登校が多い今、その価値は大きい。
- ・能力目標について  
ロボットと生き物を比較する→見えてくるものがある。「わかった反応」「関係反応」「比較反応」の内容の線引きは？  
反応が整理され活性化するにはどうすればよいか。
- ・単元名「筆者との対話」…「あなた」という説明の仕方→読み手に考えさせるところ。「書き手反応」書き手に反応する反応がどこかに出てくれば、さらに豊かに読めるのでは。

## 小野先生

反応の整理について

- 「わかった反応」＝内容に対して大体とらえられたと思ったもの
- 「関係反応」＝つながり線を引いてつながっているという反応
- 「比較反応」＝比較してよく分かったもの

## 小守先生

事実だけを重ねて主張している中村さんらしい文章。意見文とは自分の思いを重ねて述べる。事実を重ねているのを意見文と言ってよいのか尋ねられた。主張文と意見文の違いとは？

### 田中先生

事実を説明するもの…解説・説明とする。

主張・見解が含まれるもので、事実の提示の仕方によって自分の考えが表されていれば見解を表す文章。

目的によって、解説説明の文章か、意見の見解を述べる文か異なる。

小学校では、異論のない見解が出てくる。見解の文章として扱えるかどうかは微妙。本来見解の文章には別の立場が示されるはず。

### 磯野先生

反応の区別

「関係反応」「比較反応」は読むための行為。そこを通過してわかることがある。

「書き手反応」は読むときの焦点のあて方。同じ列の反応ではないと思う。

「わかった反応」は知識的にわかったこと。わかった反応以外でも焦点を当てた結果わかることがあるが、そこで区別するのかと思う。

### 赤木先生

反応は大事。いろいろな反応がある。その違いや積み上げ方が問われるところ。行為そのものか、行為を通過して出てきたものか？整理がいいのかできるのか。

光村が新版にするとき話題になったこと。この文章は説明文らしくないと言われるが、個人的にはよい文章と思う。2～5をまとめて6がありそこから得られる筆者の主張を旧版では大きく言っていたのを、つながりがわかるように書き直されたもので、より説明文らしくなっている。

### 小野先生

- ・ 1～2次のつながりはどうか
  - ・ 2次で使われるワークシートの形はどうか
  - ・ 反応の種別はこれでよいか。行為か行為の結果か。
  - ・ 筆者のメッセージを受けて自分の意見を持つことについてどうか
- について話し合ってもらいたい。

### 話し合いの結果

#### グループ1

○筆者の書きぶりについて

「あなた」の書きぶりについては言及しているが、筆者の構成について順序性など考えさせているか？

○導入

形式的に「問い—答え」でなく、感動体験から入るのはおもしろい。

出口は意見文だが、納得から入っているのはどうか。

○反応

ネーミングはよいが、ないと指標にならないし、人によってとらえ方が違う。

反応はレベルとして手法レベル。手法を意識させるのもよい。

○意見文として書かせることについて

事実を積み重ねられている部分から納得。ここから学んだことぐらいの程度に書けるのは納得。もっと広げて友達関係までは教師が意識していかないと難しい。

#### グループ2

○付箋での交流やワークシートのアイデアがよい。

○反応

「分かった反応」はレベル差があって広い。確かめ、発見などのネーミングもありそう。

○「筆者と対話」をいつから子どもは意識していくのか。

二次の2時で「あなた」に言及している。3時も書きぶりに目を向ける話題を出すことで、4時のメッセージへとつながる。

意見文を書くのなら、毎時間自分の意見を持つ工夫が必要ではないか。書きためた意見をつないで4時でまとめると書きやすいのでは。

○旧版と新版を出すと、なぜ書き換えたのかという別の意識を子どもがもたないか？

### グループ3

○一次の活動について

付箋で意欲をもたせることはよい方法。類別をしていくのは子どもにとっては難しさもありそう。感想から入る必要はないのでは。書き手が何を伝えようとしているかという形式に目を向けてすぐ入ることもできる。

○反応の種類

文学での分け方でもだが、はっきりと分けにくい、ある程度の分け方は理解を得られるものが必要。

「わかった反応」はめあてによって質が変わる。本文のままがわかった反応①、深い意味に気付けばわかった反応②になるのかと思う。

○意見文を書くことについて

二次で学んだ手法（比較）を使って書くのか、つながりというテーマで書くのか、自分に引き寄せられて書けるとよい。

○筆者の書き方の工夫

提示の順について確かめて、4時に向かえるとよい。

### グループ4

○反応のネーミングについて

反応は転用できるものとして考える。

「比較反応」「関係反応」「分かった反応」は子どもが文章から意味を作り出すときにも、筆者の論理に気付くときにも使う、幅広いものにとらえる。また「関係反応」はこの文章だからこそ出やすい反応。

ただ、一般で使われる言葉のイメージから考えると戸惑う。ネーミングは必要だが、難しさがある。

○新版と旧版の最終段落を提示する際に、事例と意見のつながりをおさえないのか。

より強調されていることは分かるが、かえることで事例を使う意味が変わってくるのではないか。

上げた事実と筆者のメッセージとの整合性を授業するのも価値があるのではないか。

授業者の意図によって扱い方も変わる。

### 小川先生

○付箋の利用について

付箋を使うことが一人歩きしないように。

ノートに感想を書くと、長く書いて自分の感想を固定化しやすい。

→新鮮な感想を残していくのが付箋の活動

付箋の活動は感想が散るのが前提。前の段階であらすじをきちんとおさえると散りすぎない。

○直観力を育てる

「感想」もあるが、「この話は何について説明しようとしているのか？」と一読で子どもに聞くのもありではないか。子どもはこの直観する力はなかなかつかない。二次でとらえたことを確かめていく。直観力を養うための二次。根拠をもとに何を伝えようとしているかを語れる子どもを育てる。

○子どものめあて

全部読むと3つのつながりがあることはすぐ分かる。ロボットと犬を比較していることも分かる。

全体と一段落を読んだ時点で「ロボットと犬の違いを考えながら読もう」というめあてが立てられる。

#### ○一段落の扱い

筆者は読者が1段落を読むことでこの世界に引きこまねばならない。問いを引き出す1, 2, 3行目を大事に扱うことで子どもは読む気になる。

#### ○反応について

何を学習したのか分からないから学力がつかない。

どんな言葉の関わりで何が読めたかを意識できるようにする。○○反応を積極的に提示する方法もあるし、「これとこれを比べたから」分かるといった読む行為をきちっと教えることが財産となる。

違いを確かめるワークシートでめあての答えをきちっと取り出すレベル

何が違うのかを比較するレベル→汎用性がある学力。比較を意識させていく。

気付き反応は白丸だが、比較反応は黒丸にして重み付けをしてやる。

#### ○書き手を意識する反応

最後の2段落はおもしろ見つけがしにくい。

「あなたは〜」「どうでしょう」「〜でしょう」「なのです」などの書き手が伝えようとしていることを最後の2段落の前に意識させることで、書き手を意識した反応をもたせていく。

第一次のめあてを立てる出発の時に気付かせていくことができる。

#### ○ワークシート

絵の提示の仕方

人間や犬の「赤ちゃん」「おじいさん」、「他の動物」など挿し絵シリーズを用意して切り取って使えるようにする方法もある。

ロボットを意識して読むことで、文章にはほとんど書かれていないところもあるが、逆に生物の成長が分かる。

### 田中先生

#### ○新版と旧版の違い

コンパクトにしようという流れ。3, 4, 5段落を6段落で整理して分かりやすくしている。

新⑦はそう変わらず、説得力ある説明はされていない。

旧⑧「自分を大切にすることと他を大切にすることは同じ」は飛躍。ここでいう他は友達や周囲の人と考えられるが、同じであることは説明されていない。

#### ○意見文の扱い

二次4時は成立するが、根拠がない部分なので感想レベル。

⑥までは生き物の特徴を研究に基づいて解説しているもの。

自分が変わったこととして「人間だけの祖先だけでなく、生命の始まりまでつながりがあることは考えたことがなかった」「細胞が変わっていくことが分かった」といった変容から、他の人への見る目が変わったことを書くことはできるだろう。

#### ○反応（情報、ストーリー、表現、ポイント駆動）について

それに合わせて整理することはできるが、小学校では子どもに示す必要はない。

中学校で目の付け所「観点」「分析方略」として整理して体系的にとらえるのが必要な発達段階。

「わかった反応」：おもしろい、心にしみる、好き、分かった、うまい、難しい…これが直観に関する反応。

感性的な直観、評価する知的な直観、インスピレーション的な直観は分析の結果ではなく、読んだときすでにそうってしまったものが直観に関わる反応。

「比較反応」「関係反応」：関係に気付いてわかったものは方略含み。レベルが変わる。

観点をもってわかること：○○に目を向ける、例えば登場人物・情景に目を向けるなど、これもわかったにつながるが、このレベル差を子どもに提示するものとして分けていく必要はない。